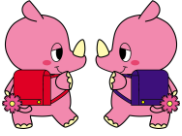




原っ子つうしん

教育目標：～自らの可能性に挑戦する活力ある原っ子～

令和5年
2月9日(木)
印西市立原小学校
校長室便り
〈第10号〉



パラスポーツ体験

先日、4年生は総合的な学習において、順天堂大学の学生を招いて「パラスポーツ」を体験しました。ご存じのように、パラスポーツとは、障害のある人のために考えられたスポーツや障害の有無に関わらず取り組めるスポーツについて広く表す言葉です。一般のスポーツのルールを一部変更したり、用具を用いて工夫したりすることで、楽しく安全にスポーツを行えるようにしているほか、ボッチャなど、もともと障害のある人のために考え出されたスポーツもあります。

4年生は、この学習を通して様々なことを学びました。私たちは一人一人違いますが、いろいろな人が住みやすい社会をつくっていかねばなりません。そのためにも、自分がで

きることを、みんなで協力してできることを考えて行動していくことが大切だと思います。将来、そのようなことができる児童をめざし、職員一同努力してまいります。



パラスポーツのはじまりは？

障害のある人々がスポーツを行っていたという記録は紀元前から見られるようで、19世紀以降のヨーロッパでは障害のある人々がクラブを作るなど活動が発展していき、初の国際的な大会として、1924年にパリで第1回国際ろう者スポーツ競技大会が開かれました。1948年ロンドンオリンピックに合わせて、第二次世界大戦で主に脊髄を負傷した兵士たちのリハビリテーションの一環として行われたアーチェリー競技大会がパラリンピックの原点となったそうです。

立派な社会人になるために

以下は、先日の全校集会で私が児童に伝えた話です。

私は、将来、皆さんが、立派な社会人になってもらいたいと思います。では、どうすれば立派な社会人になれるのでしょうか。いろいろあると思いますが、やはり次の3つのことができる人が、立派な社会人に近づける人だと思います。

1つ目は、名前を呼ばれたら、「はい」と返事をするということです。名前を呼ばれるというのは、相手の人があなたのことを認めている証拠です。自分のことを認めてもらっているのに、「はい」と返事をしない人は、立派な人とは言えません。名前を呼ばれたら、必ず、「はい」と返事ができることが大切です。

2つ目は、「おはようございます。」などの挨拶ができる人です。人は、一人で生きていくわけではありません。多くの人たちのつながりの中で生きています。そのつながりを強くするのは、すべて挨拶から始まります。これまで、私とお話したことのある人は、みんな「おはようございます。」と挨拶できる人でした。立派な社会人は、みんな挨拶ができる人ばかりです。

3つ目は、靴を脱いだら揃える、席を離れるときは椅子を中に入れることです。また、傘を閉じてきちんと傘立てに入れることも大切です。皆さんの下駄箱の靴や教室の椅子、傘立てはどうでしょうか？靴や椅子、傘がしっかりと後片付けできている人は、何事も最後まで気を抜かず取り組める人だと思います。そういう人が、将来、立派な社会人になっていくと思います。

是非、「返事」、「挨拶」、「靴や椅子、傘の後片付け」、この3つのことを心がけ、立派な社会人になってください。